



世界に希望を生み出そう

- ◆国際ロータリー会長
ゴードン R. マッキナリー
- ◆第2660地区ガバナー 延原 健二
- ◆クラブテーマ「会員増強」

本日例会 2024年 3月 7日(木) 第960回

会長の時間

◆ロータリーの友2月号より

担当：会員組織委員会

卓話：「サウナについて」

藤井 良郎 会員

広島が教えてくれること
ICU平和フェロー第21期生
カルロス・マリオ・ナバレテ

歴史の陰影の中で、人間はなぜ原爆のような壊滅的な手段を生み出すのでしょうか。それは恐怖や不信に根差したものなのか、それとも憎しみや利己主義、競争、上下関係、支配のない世界を思い描くことができなからなののでしょうか。今日、活気に満ちた広島は、私が日本で訪れた中で最も好きな都市の一つです。訪れた人を包み込むような広島に、私は独特の平和観をもたらす厳粛な静けさを見出します。何万人もの人々が一瞬にして消え去ったあの壊滅的な瞬間の後も、生命力が絶えることはありませんでした。人間の回復力は輝きを放ち、破壊の残骸の中で新たな創造を生み出し、悪夢が再び訪れないように声を上げました。しかし悲しいことに、人間の争いは世界のあちらこちらで暴力となって今も芽生えています。なぜ人間は互いに敵対するのでしょうか？なぜ人間は違いを受け入れようとしないのでしょうか？なぜ私たちは、生きる権利が階層化する現実をつくり出してしまうのでしょうか？破壊や暴力は恣意的に起こるものではなく、意思決定、行動、感情、文脈に起因しています。そのため、私たちはこのような悲劇を防ぎ、回避する力を持っています。このような変化を起こす力は私たちの手の届くところにあります。痛み、苦しみ、そして愛する力が私たちを一つにするということは、私たちの持つ人間性の奥深さを紡いでいます。私たちの行動の背後にある理由を理解することは、極めて重要です。人類の傷ついた心を修復することはできるのでしょうか？私は今も考え続けています。

(ロータリーの友2月号より抜粋)

前回例会 2024年 2月15日(木) 第959回

- 開会 会長
- ロータリーソング「我等の生業」
- ニコニコ箱報告(小計5,000円 累計319,000円)
福田会員 決まりました。真弓(マユミ)と書いてマユと言います。初孫が！
- 委員会報告
 - ①社会奉仕委員会 災害復興担当 金崎副委員長
地区臨時補助金事業(輪島市支援)報告
 - ②国際奉仕委員会 R財団担当 樋上副委員長
GGプロジェクト承認連絡の報告
- 幹事報告
 - ①会議・会合開催連絡
 - ・2/21(水) 第4回燦々会開催 会長・幹事出席
 - ・2/25(日) 米山奨学生終了式開催
福田カウンセラー・チムカさん出席
 - ・2/29(木) 大阪国際高等学校卒業式
小林国際奉仕委員長出席
 - ②休会連絡 2/22(細則休会)・2/29(定款休会)
 - ③事務局閉局連絡 2/21(水)・2/22(木)
 - ④次回例会開催日 3/7(木)通常例会開催
18:00~定例理事会開催
- 出席報告(会員総数18名)
2月15日 出席11名 欠席7名 出席率61.11%
メイクアップ報告
1月11日 出席14名 欠席4名 出席率77.78%
(メイクアップ者 4名)

7. 会長の時間

8. 本日のプログラム

担当：クラブ運営委員会

卓話：「京都お茶屋よもやま話」

卓話者：中道 孝治 会員

9. 閉会 会長

○親睦食事会「マジョリカ」

次回例会 2024年 3月14日(木) 第961回

クラブ親睦例会(ノーマイカー例会)

卓話担当：社会奉仕委員会

卓話 「京都お茶屋よもやま話」

中道 孝治 会員

京都には祇園甲部、宮川町、先斗町、上七軒、祇園東の5つの花街があり、これを総称して五花街と呼んでいます。

① 祇園甲部

江戸・寛永年間から八坂神社の門前で茶屋街として栄えてきました。その後、明治14年、当時の京都府知事により、祇園町が2つに区分され、新しく祇園甲部としてスタート。京都市東山区の東は東大路通、西が鴨川、南北は建仁寺から新橋通に囲まれた、重要伝統的建造物群保存地区の祇園白川地区を含む京都で最も大きな花街。お茶屋、料亭などの伝統建築と石畳みの格調高いたたずまいが特徴。舞踊は京舞井上流。芸舞妓による春の舞踊公演「都をどり」は、第1回京都博覧会関連事業として明治5年に三世井上八千代によって創始され、今日に至っています。秋の舞踊公演は「温習会」。紋章は八個のつなぎ団子に「甲」の字。



② 宮川町

鴨川左岸、京都市東山区の宮川筋二丁目から六丁目のあたりに、いかにも伝統の花街らしいはんなりとした風情の街並み。地名の由来は、四条以南の鴨川が八坂神社の神輿洗い神事が行われるために宮川と呼ばれていたことなどにちなむと伝わっています。江戸時代初期の慶長年間、四条河原発祥の出雲阿国の歌舞伎踊りの時代に始まり、以後、歓楽街となって発展した当地で、歌舞伎などの芸能と深くかかわりながら茶屋街として発展。舞踊は若柳流。春の公演は「京おどり」、秋には「みずゑ會」が開かれます。紋章は、三つ輪。明治時代、寺社と町屋と花街の三者の結合をイメージして定められたと。



③ 先斗町

京都市中京区の四条通から三条通一筋南まで通じる南北500メートルほどの鴨川右岸に沿った細い通り。そこに、紅殻格子のお茶屋や置屋、飲



食店などが立ち並び、東西の無数の路地には飲食店も多く心浮き立つ風情。語源も諸説ある先斗町ですが、正徳2年ころから、鴨川大普請で鴨川と高瀬川の間に作られた新河原町通に、高瀬舟の船頭や旅客目当ての旅籠屋などができたことが始まりとされ、幕末から現在のような花街となって繁栄してきました。舞踊は尾上流。春（5月）に「鴨川をどり」（明治5年創演始）、秋には「水明会」が開かれます。紋章は鴨川に接する花街らしく舞い飛ぶ千鳥。

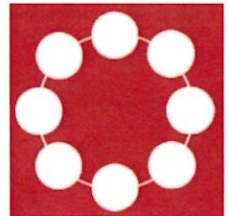
④ 上七軒

京都市上京区の北野天満宮に近接し繁華街にある他の花街とは違う落ち着いた雰囲気漂う。室町時代中期（15世紀半ば）に北野天満宮再建に使った余材で7軒の茶屋が建てられたのが起源とされ、天正15年、北野大茶会を催した豊臣秀吉がその名物の御手洗団子を大いに気に入り茶屋株を公許して以降、茶屋街となったとされています。主に京都を代表する絹織物産地の西陣と結びつきながら、独特の格式と風情の花街として発展してきました。舞踊は花柳流。春の公演は「北野をどり」、秋には「寿会」が開催されます。紋章は秀吉のエピソードにちなみ、まるく交差する五つ団子。



⑤ 祇園東

京都市東山区の東大路通と花見小路の間で四条通北側の通り三本（東富永町・中末吉町・新橋）にまたがり、京都を代表する繁華街に位置。明治14年、当時の京都府知事により祇園町が2つに区分され、膳所藩京屋敷跡から再出発し、その後、「祇園東新地」を経て祇園東となりました。近代的な風景の中に、伝統的なたたずまいのお茶屋の建物が、当地の氏神である赤い鳥居の「観亀神社」と並んでしっとりと建つ姿が印象的。舞踊は藤間流。「祇園をどり」は京都花街で唯一秋に行われる舞台公演、夏には長唄、清元、お囃子などの発表会「ゆかた会」も開かれます。紋章は八個のつなぎ団子。



（京都花街オフィシャルサイト
「京の五花街」より抜粋）